

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団直江クリニック グループホームゆうあい (ゆう)	評価実施年月日	平成19年11月30日
評価実施構成員氏名	高橋 ・ 寺尾 ・ 廣富 ・ 佐々木 ・ 堀口 ・ 菅原 ・ 波岡 ・ 阿部 ・ 土岐		
記録者氏名	高橋	記録年月日	平成19年12月4日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念を休憩室などに貼ってあるが、十分に理解できていない面もみられる。	○	職員間で確認し、理解できるようにする。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念をみて、取り組んでいるが十分に出来てはいない。	○	定期的に理念について、職員間で確認し、共有できるようにする。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域運営推進会議等で理解を求めているが、現在は十分に取組んでいない。	○	地域運営推進会議等の中で取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	気軽な雰囲気作りに努めているが、十分ではない。	○	気軽な声かけに努めていく。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の祭り等に参加して、交流することに努めている。	○	毎年参加している。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域運営推進会議等は開催しているが、地域貢献はできていない。	○	地域運営推進会議等の中で何が出来るか検討していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義は、理解しているが、具体的な改善には十分取り組めていない。</p>	<p>○ 自己評価後の話し合いを持ち、改善策に取り組んでいく。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>地域運営推進会議の報告が職員に十分伝わっていない面もみられる。</p>	<p>○ 地域運営推進会議の報告を全体会議等を通して報告検討する。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市担当者とは、電話等での連絡にとどまっている。</p>	<p>○ 市担当者に定期的に訪問し、話をし質の向上に取り組む。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>地域権利擁護について、学ぶ必要性はあるが、十分に活用できるまでいっていない。</p>	<p>○ 地域権利擁護について、勉強会等を開いていき、理解を深める。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全体会議等で高齢者虐待防止法の説明を行い、虐待防止に努めている。</p>	<p>○ 引き続き虐待防止に努めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、解約時は家族に十分に説明して理解・納得を図っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見を聞く機会を作っているが、十分に活用されていない。</p>	<p>○</p>	<p>定期的に管理者が、職員と面接し意見を聞いていく。</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>3月に一回家族へのお便りを出して報告している。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営に関する家族等の意見を聞く機会を設けているが、十分に機能していない。</p>	<p>○</p>	<p>ご意見箱を設置し家族等の意見を聞いていく。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一回全体会議を開催し、意見を聞いているが、十分に対応は出来ていない。</p>	<p>○</p>	<p>全体会議等の中で、意見を聞いていく。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員が不足がちな為、十分に対応は出来ていない。</p>	<p>○</p>	<p>職員の補充を行なう。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が不足がちな為、利用者へのダメージを防ぐ配慮はできていない。</p>	<p>○</p>	<p>職員の補充と研修等を行なっていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	職員を育成する仕組みは十分に出来ていない。	○ 勉強会、研修会等への参加していく。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	職員間での交流が少なく、同業者との交流を通じた向上はできていない。	○ スタッフ研修会等に参加し、他ホーム職員との交流を行なう。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	面接等を行なって話を、聞く機会を作ってはいるが十分な取り組みにはなっていない。	○ 引き続き面接等で、職員の話聞いて対応していく。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	職員が向上心をもって働ける取り組みはまだ十分に出来ていない。	○ 職員が向上心をもって働けるような職場環境作りをしていく。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	入居時は、管理者が家族と話しているが、十分な情報を得られない面があるため、本人自身を受け止めるよう務める。	○ 事業所、家族等からの情報収集に努める。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	他事業所との情報交換を行い、家族等から受け止める努力をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在、利用している事業所からの情報を基に、支援の見極め、他サービス利用も含めた対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族と相談しながら、対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に過ごし支えあう関係を築いているが、十分にできていない。	○	利用している方の立場に立って考えていく。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との信頼関係を築いているが、十分にできていない。	○	家族との信頼関係に努めていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族との関係の理解には努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの物を持ってきてもらうよう家族に話をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が利用者の中に入り、関わり合いを促しているが、十分ではない。		各利用者それぞれに合わせた関わり方をしていくようにする。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も関わりを必要とする場合、関係を断ち切らないように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや暮らし方の希望は、家族本人を通して把握に努めているが、十分ではない。		本人の意向が困難な利用者に対して、希望を把握するように努める。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人一人の生活歴や暮らし方の経過については、家族本人を通して把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	暮らしの現状や過ごし方については、本人家族を通し、また1日の生活の中で状況を見て把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	生活の質の向上を目指し取り組んでいるが、十分ではない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しについては、現状に即した計画を作成しているが、十分ではない。		介護計画の見直し等については、十分ではないので、勉強会等を開催する。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気づき等個別記録に記入し、情報を共有しているが、十分ではない。		介護記録、個別記録をケース会議等の中で検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	柔軟な支援は十分にできていない。		事業所の多機能性をだせる組織に取り組んでいく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域資源との協働は考えているが、取り組みは出来ていない。		地域資源を活用できるような組織作りをしていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	マッサージ等の往診があるが、まだ十分とは言えない。		地域資源マップ等を活用し、サービスの充足をする。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターに情報は出しているが、協働はできていないと思われる。		地域支援センター職員との交流を図っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的にかかりつけ医に受診し、支援を受けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医はいるが、十分に活用できていないように思われる。		専門医に来所してもらい、勉強会を開催する。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	グループホームに看護師がいるので、日常の健康管理や医療活用の支援を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院に向けては、相談情報交換を行なっているが、十分ではない。		管理者、担当者が病院等との情報交換を行う。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に対応はしているが、全員で方針を共有できていない。		職員の勉強会等を開き、終末期の対応について共有する。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	チームでの支援については、まだ十分に準備はできていない。		職員の勉強会等を開き、終末期の対応について共有する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームから移る場合は、ケア関係者と情報交換は行なっている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損ねるような言葉かけには気をつけているが、個人情報についての取扱いが十分ではない。</p>		<p>個人情報については、保管管理を含め取り扱いに気をつける。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者本人の希望は聞いているが、納得されているかについては十分ではない。</p>		<p>一人ひとりの思いを、担当者が聞いてチームで共有する。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にしているが、十分ではない。</p>		<p>一人ひとりのペースに合わせるように対応していく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>月一回の訪問理容のため、本人の望む所には行けていない。</p>		<p>本人が望む所があれば、行けるように対応する。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員は食事の雰囲気作り、片付け等お願いしているが、まだ十分ではない。</p>		<p>食事が楽しめるような雰囲気を作っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは血圧測定しながら吸っていただく、それ以外の嗜好品については支援が十分ではないと思われる。		体調的に問題がなければ、嗜好品で本人が楽しめるように支援する。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンを把握しているが、気持ちよく排泄する部分においては十分でないと思われる。		排泄時のパターン把握と、自尊心を損なわないような対応をしていく。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日、時間帯は広く設定しているが、入浴を楽しめるようにするには十分ではないと思われる。		職員のペースではなく、利用者のペースに合わせていく。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安眠、休息についてはそれぞれの場面において援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	役割はお願いしているが、楽しみごと、気晴らしができていないかについては十分ではない。		会話、外出、行事等で楽しみ事を増やしていく。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はホームで預かっており、お金を使えるような場面作りをしている。		お金が使える人は、買い物等で使えるよう支援していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	スタッフの対応が出来ず、十分に支援できていない。		スタッフの人数を増やして、対応していく。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出支援は行なっているが、スタッフの対応もあり、十分に支援出来ていない。		本人、家族の希望を聞いて、取り組んでいく。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話については、使える方には自ら出来るように支援している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に訪問できる体制ではあるが、十分ではない。		スタッフの人数を増やして、対応していく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	一時的に不穏になる以外は、基本的に鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	夜間は2時間毎に訪室し、安全確認をおこなっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品は預かっているが、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みは十分ではない。		一人ひとりの安全について、スタッフで話し合って対応する。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止の取り組みはしているが、ヒヤリハット・事故防止で再発防止を図っている。		一人ひとりの対応について、ケース会議等で確認し、対応する。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応について、定期的な訓練は行っていない。		事故防止、救急法の勉強会を開催する。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害対策については、利用者が避難できる方法について、地域の人々の協力は十分ではない。	○	町内会の中で、避難時の協力体制がとれるようお願いしていく。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	持病等の話は、受診後の報告、ホーム内での暮らしの中での対応について話しているが、十分ではない。	○	看護師を中心として、医療機関との連携をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化、情報把握をしているが、情報の共有は十分ではない。		看護師と勤務者の情報交換を密にし、医療機関に対応していく。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師、主治医に薬について相談し、服薬支援を行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	飲食物の工夫は行っているが、体を動かす働きかけは、十分ではない。		一人ひとりの体調把握を、看護師を中心にしていく。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケア、はみがき、入れ歯洗浄は行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養摂取、水分確保については、水分チェック表を用い確保している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防マニュアルを作成しているが、訓練等は行っていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食材の管理、食中毒の予防のための対応はしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	花壇に花を植えたりして、入りやすい雰囲気は作っている。		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	共有のホールに、季節にあった飾りつけ等をしている。		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共有のホールに、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		建物の構造上できる範囲のスペースの確保をする。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	本人・家族と相談しているが、居心地よく過ごせる居室の配慮については、十分ではない。		使い慣れた物が少ないため、家族に持ってきてもらうよう話をしていく。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気、温度調節は、利用者の状況に応じて行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すり、段差等はないが、トイレ、浴室の広さが十分に対応できていない。</p>	<p>トイレ、浴室については、スペースが確保できるか検討していく。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>環境作りはしているが、十分ではない。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせた対応をしていく。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏の間は、ベランダを活用している。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ① 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 入居者一人一人が束縛のない安らぎのある自由な暮らしをしていただく。

各入居者の残存機能を把握し、行える作業はストレス無く、少しでも関わっていく機会をつくる。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団直江クリニック グル - プホ - ムゆうあい (あい)	評価実施年月日	平成19年11月30日
評価実施構成員氏名	三橋、長谷川、福原、寺下、岩澤、佐々木、佐々木、阜山、尾子		
記録者氏名	三橋	記録年月日	平成19年12月5日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>.理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>採用時に口頭・文書をもって掲示</p> <p>職員会議等を通して、全職員に口頭+再検討</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員休憩室に書面にて掲示してある他、会議を通して再確認を行っている。</p>		
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居時重要事項説明書には明示されているが、見えやすい所には明示していない。</p>		<p>生活空間であるGH内に明示することについて、生活空間としての認識が薄れる可能性があるのでは？との危惧があるが、掲示等検討する。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会祭りへの参加や散歩等行い、この際に近隣住民などとの交流があるが、それにとどまっている。</p>		<p>町内行事への参加。</p>
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会祭りへの参加や散歩等行い、この際に近隣住民などとの交流があるが、それにとどまっている。</p>		<p>地域への行事の積極性を高める。</p>
<p>6 事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>天気の良い日などは、体調を確認し、外に出かけるよう働きかける。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義・結果の周知についてはできているが、サービス改善にどの程度活かされているのかを正確に把握できていない。		評価結果が、サービス改善にどの程度活かされているのかを、検証することが必要。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営理念をスタッフコ-ナ-に掲示する等、全ての職員が日常の勤務を通して常にそれを目の当たりにするだけでなく、自己評価を行ったり、勉強会等で度々反復している。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所、上川支庁との連絡調整を随時行っている。また、市介護保険課の訪問相談員の受け入れも行っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	入居時契約書・重要事項説明書により、入居時点には説明・同意を得ている。見えやすい所には明示していない。必要に応じて口頭にて説明実施。		生活空間であるGH内に明示することについて、生活空間としての認識が薄れる可能性があるのでは？との危惧があるが、掲示等検討する。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議はもちろんのこと日常的においても職員に対し確認をする等注意を払って取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	認知症であれば基本的に受け入れる方針、事前に要介護認定の確認、診断書を提出してもらっており、家族の希望・本人との面談を行い、十分検討している。 本人、家族の相談時及び契約時に、利用料の説明等を行い、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	グル - プホ - ムの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(グル - プホ - ムの説明会、グル - プホ - ム便り等)		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3月に一度家族等にグル - プホ - ムだよりを発送しており、入居者の健康状態、生活状況をお知らせしている。 ○ その都度家族等に連絡を入れ、対応の相談をし、カルテや日誌等にも内容を記録している。 		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今のところ家族会等は設けていないが、家族の声を聞き、必要であれば行う。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営は人材育成が必要になるとの信念があり、質の向上に向け前向きに考えている。		課題があればその都度相談し、解決している。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の生活時間にあわせた食事時間の設定、又、入居者の支援の必要度にあわせ、早番・遅番を導入し、ロ - テ - イションを組んでいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	日常的な管理者の指導・助言に加え、ケ - ススタディを含めた勉強会や職員会議の継続的な実施で、課題解決のための力を付ける努力をしていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各研修等に参加していく。		研修等があれば積極的に参加してもらおう。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	継続的な研修の受講をしていく。		他の施設の職員との交流・研修を行う。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の悩み事の聴取は、施設長へ口頭による相談の受付		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	月に一度の勉強会を行い、認知症高齢者の理解を深める努力をしていく。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談事には出来るだけ聴ける態度をもって受け止める様にしている。		相談事にはじっくり時間を持って受け入れ出来る事が望ましい。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面会時等の報告・電話連絡の実施 迅速に対応できるよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	定期的連絡等を積極的に行っている。		電話連絡の実施・面会時等の話し合い
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	定期的連絡等を積極的に行っている。		電話連絡の実施・面会時等の話し合い
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入居者ができる事は一緒に行っている。 ○ 職員と一緒にTVを観たり・話をしたりしている。 ○ 悩みを打ち明けられた時は、ゆっくりと傾聴する。 		
28 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の誕生会、又敬老の日には、家族の方にも参加を呼びかけ一緒に楽しんで頂くようにしている。		より多くの家族の方が参加される様に工夫が必要
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者担当者は、毎日の細かな事まで家族に連絡しコミュニケーションを取っている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時に会うことはできるが、自ら会いに行くことはしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	トラブルが起きないように常に観察している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行事の参加呼びかけ等をしているが一部の入居者にとどまっている。		家族会の実施・誕生会行事への参加呼びかけ。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向にそってできるだけ無理なく負担にならない様に支援している。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居後、集団での生活やA D L の低下等により生活リズムの変更をされている方もいる。		個々の希望を引き出し、可能な限り以前の生活リズムを保っていただけるよう支援していく。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の様子を記録に記入する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に全体会議を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況の変化により、必要と思う場合には計画の見直しをし、新たに検討している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一日の様子は全て記録に記入し管理している事でケアプラン作成などに活用。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	面会時の声かけ 定期的連絡等を積極的に行っている。		電話連絡の実施
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月1回の踊りボランティアの慰問等、地域ボランティアの受け入れは行っているが積極的交流には至っていない。		行事の参加・散歩や買い物等を通してきっかけの糸口を見つけていく。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人状況に応じてアセスメントを実施。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者希望の紹介・相談あり。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週1回、内科精神科医の医師の往診を受けていただいている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	週1回、内科精神科医の医師の往診を受けていただいている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	往診実施していただいている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	協力医療機関より適切な紹介、指導を受けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	職員研修等を行っているが、全員が理解しているかについては疑念あり。		職員研修の継続
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	職員研修等を行っているが、全員が理解しているかについては疑念あり。		職員研修の継続

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	状況に合わせて検討する。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者に誤解されない態度や、言葉使いで一人一人を尊重し、対応するよう心がけている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	常に声かけをし、入浴・外出・食事のメニュー・髪型に至るまで、自ら選んでもらう機会をつくるよう心がけている。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者優先を心がけて、入居者のペースで生活できるようにしている。		入居者本人に声かけし確認しながら、入居者のペースに合わせている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入居者個人の雰囲気大切に、職員が声かけをしながら一緒に選んだり、アドバイスをしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しく食べてもらえるような会話や、席の配置等を心がけている。		入居者の表情等を観察しながら、状況にあわせた声かけをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者本人の健康状態等を勘案し、他の入居者の迷惑にならないように時間や場所を決めるなどし、楽しめるようにしている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの表を作成。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴希望を確認した上での入浴を実施。早朝、夜間については本人よりの希望がなければ実施していない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人一人の睡眠のパターンを把握し心身を休める場面を個別に取っていただく様実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	強制ではなく自然な形で活動するように、又持てる力を発揮してもらえるよう配慮する。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者と家族とホムが本人に金銭を管理することができるかと判断したときに本人に金銭をもたす。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は外出の機会が減ってしまうが、入居者個人の状態に応じ、希望を聞き入れ、車椅子、車等を利用し、外出して楽しむ機会を作るよう心がけている。		家族の所への外出、買い物等職員からも促している。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	冬期間は外出の機会が減ってしまうが、入居者個人の状態に応じ、希望を聞き入れ、車椅子、車等を利用し、外出して楽しむ機会を作るよう心がけている。		家族の所への外出、買い物等職員からも促している。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自然な形で声かけをし、やり取りができるよう心がけている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族への声かけ（挨拶・会話） 家族の面会時にはコミュニケーションを図り、心配ごとや意見、希望を聞くように働きかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の内容（身体だけでなく、言葉等も該当すること等）をスタッフに説明し、理解している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵を設置している居室があるが、本人の十分な理解を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシー等については熟慮しているが、声かけ誘導時に本人の意思決定より定期的な業務（食事・トイレ・入浴等）を率先してしまい、本人より苦情、反発が出ることもあり。		本人の状況に応じた誘導、質問方法の確立と実践。命令的語調の撤廃。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	保管場所を取り決めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、連絡体制の周知徹底は行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	常勤準看護師の配置及びその管理指導下により対応実施。また、講習会への参加と報告会の実施。		報告書を用いて、スタッフ会議により再発防止の徹底。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	まだまだ地域への理解が得られていない。		地域への行事の積極性を高める。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	電話連絡、月1回の「生活の様子」として文書にて報告。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者のバイタルチェックを毎日定時に行い。異常時には看護師・主治医と相談しながら早期発見に努める。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の服薬している薬とその用法等についてスタッフは承知し、医師・看護師の指示通り服薬出来るように支援する。 ○薬の目的、副作用などについてミ・ティング、勉強会を行う。 		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分を多く摂取し、適度な運動を取り入れる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ○食後にお茶を飲んでもらったり、マウスケアを行って口腔内の清潔保持を行う。 ○全介助の入所者にも、歯ブラシを持たせ意欲を引き出すよう働きかける。 		マニュアルを作成
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ○糖尿病の人の食事や、血圧の高い人の食事等、量や味付けを考える。 ○水分摂取量も把握する。 		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ○簡易ではあるが、感染症マニュアル作成済み。 ○全職員への周知徹底の継続。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○衛生チェック表を作成し、清潔や衛生を保持する。 ○一日一回以上の漂白、アルコール消毒を実施。 ○残飯は都度捨てる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○玄関に花瓶、鉢植えを置き、入居者や家族や来訪者の方々が気楽に入れるような家庭的な雰囲気作りをする。 ○椅子を置きお年寄りの靴の履き替えがしやすくする。		玄関前の広場に、数種類の鉢植え等を置く等、入居者はもちろんの事、近隣の人達にも見て楽しんでもらえるよう工夫する。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な物を購入使用し、家庭的な空間づくりをする。		
82 共用空間における一人一人の居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビング・ダイニングの他に、事務所前に椅子とテーブルを用意し、それぞれ入居者が自由に過ごせるような居場所を確保する。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に自宅で使用していた物を居室に、寝具、家具、装飾品、仏壇、冷蔵庫、収納箱、家族の写真、部屋で使う日用雑貨などを持ち込んでいただいている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気・空調は適時行ってはいるものの、冷房が中央のみの設置のため、夏期は暑い時もみられる。また、加湿器は使用しているが、冬期は乾燥傾向にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>個別の能力に応じた家事、作業活動へ参加いただいているが、一部の入居者に限られている。</p>	<p>残存機能の再認識と個別メニュー - の設定。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>調理や後片付け等、できる範囲で職員と共に行う等、自然な形で力を発揮できるよう配慮している。</p>	<p>入居者のやる気を損なわないよう配慮し、もてる力を発揮できるよう支援している。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>ベランダや玄関前等を利用し、お茶や日光浴等を行っているが、まだまだ充実できているかは疑問。</p>	<p>入居者との意見交換による環境整備の徹底と、花壇、畑等の有効活用。</p>

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ○ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日ある ○ 数日に1回程度ある ○ たまにある ○ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ○ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ○ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ○ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ○ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての利用者 ○ 利用者の2 / 3くらい ○ 利用者の1 / 3くらい ○ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ全ての家族 ○ 家族の2 / 3くらい ○ 家族の1 / 3くらい ○ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほぼ毎日のように ○ 数日に1回程度 ○ たまに ○ ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者一人一人が束縛のない安らぎのある自由な暮らしをしていただく。

各入居者の残存機能を把握し、行える作業はストレス無く、少しでも関わっていく機会をつくる。